

	進取の気概 (校長室だより)	有田市立箕島中学校 自主 友愛 剛健	R4・6・28
			No.20

「心をひらく」とは、どういうことでしょうか。「ひらく」と同じような意味で「あける」という言葉があります。例えば、「ドアをひらく」、「ドアをあける」、どちらも同じ意味で使われます。では、心の場合はどうでしょう。「心をひらく」は使いますが、「心をあける」という言い方はありません。このことから「あける」と「ひらく」はいつも同じ意味で使われるということではなさそうです。調べてみると、その違いが分かります。

【あける】 ふさいでいる仕切りや覆^{おお}っているものなどを取り除くこと。

「ふたをあける」「かばんをあける」

【ひらく】 くっついたり、折り畳^{たた}んだりしてあるものを広げて、中が見えるようにすること。

「傘をひらく」「本をひらく」

「ひらく」ということを花で考えてみます。写真のようなつぼみの状態では、花びらがお互いにくっつき合っています。そして、このつぼみの状態からお互いにくっついている花びらが離れ合っていき花がひらき(咲き)ます。



「心をひらく」ということも、この「花がひらく」と同じようなことだと思います。



心を閉じているのはつぼみのような状態です。外部からの新しいものの見方や感じ方が自分の中に入ってくることはありません。それは、とても寂しく残念なことです。一方で、心をひらいているとは花が咲いている状態です。この状態だと、外部からの新しいものの見方や感じ方が自分の中に入ってきます。だから、さまざまな人の話を聞いたりして自分を成長させることができます。また、花が咲いた状態では花の中(めしべやおしべ)を見ることができます。同じように心がひらいた状態だと、相手に自分の中(考えていることや気持ちなど)を分かってもらえやすくなります。

言うまでもないことですが、一人ひとりが個性をもっています。いろいろな人がいて、いろいろな見方、感じ方、考え方があります。自分とは違うから、みんなと違うから受け入れることができないのは、自分の心がひらかれていないということ、心がガチガチにかたまってしまっている証拠です。それは、自分の成長を妨^{さまた}げることにもなります。

まずは自分の心をひらいて、友だちに話しかけてみましょう。中には苦手な友だちもいるかもしれませんが、苦手な友だちでも、その人の良さを受け止められるように心をひらいてみる。心をひらくことで相手にも自分のことを分かってもらえやすくなります。みなさんには誰にでも心をひらくことのできる人になってほしいと思います。